

## 【5】 実践事例 一授業づくり一

### 〔1〕 中学部の授業づくりについて

我々は日々、数知れない授業を生徒と共に創り出している。その実践を謙虚に反省したり、他者の意見も参考にしたりしながら更に良い授業を創造し、生徒たちと共に育っていかうとするものである。

#### (1) 授業づくりとからだづくり

からだづくりの為の特別の授業を組立てるものではない。「運動」「生活」「健康管理」の3場面からと、からだづくりに視点を当てて編成した教育課程の1時間1時間を、どの子にも「楽しんで力いっぱい活動できる授業」として具現化することである。「授業づくりを、からだづくりのテーマに即した場で実践することがからだづくりにつながる」と考える。

昨年度はこの授業づくりを1時間の授業を中心に取り組んだ。今年度はその取り組みを引き継ぎながら、その前提となる単元や題材の選定、組み立てにまで広げて授業づくりを考えていこうとした。

#### (2) 授業づくりでめざす授業

「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」を実現する授業とは次の様な授業であると中学部では共通理解した。

##### ① 楽しい授業、意欲的に取り組む授業

「今日が楽しかった、おもしろかった」と自己実現し、思いを明日に継いでいける授業であること。子どもも教師も楽しんで活動する中でこそ子どもは育つ。

##### ② 皆が同じ目的に向かう、集団としての良さを大切

にしなが、個別化の充分図れる授業

集団で取り組む同一の課題や教材の中に、個に応じた活動や、より良い対応の仕方を工夫する。

本年度はこの2点を大前提とした取り組みを踏襲しながら、殆んど生徒の発達年齢が5～8歳という点に着目して、(○頁の発達検査参照)

表7に示す留意点を生かした、次に示す授業を更にめざしていった。

##### ① 生徒の問題意識、目的意識から出発する授業

生徒の思いを引き出したり(掘り起こす)、教師の思いであっても生徒の思いを必ずくぐらせたり(暖め)、次時の課題を明確にして、次時への期待感や課題意識を持続させる(家庭との連携)等、「生徒の構えづくり」の工夫をする。

##### ② 一人ひとりを活動しきらせる授業



「ああおもしろかった。またしたいな……」

表7 5～8歳の発達に於る留意点

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自分なりの努力目標を持って取り組む</li><li>・だんだん出来だしたことを評価し、喜び、もっとしたいと思う</li><li>・「頑張ろう」「～だから頑張ろう」という気持ちが持てだす</li><li>・見通しと段取りが付けやすくなり、何日も先のことが見通せる</li><li>・苦手なことでも頑張ろうとするが、まだまだ心の支えになる人、援助をする人が必要である</li><li>・行動する前に、周り自分とを見比べて、思い直す</li><li>・周りのプラス評価の期待に答えて行動しようとする</li><li>・大人扱いを誇り高く受け止め、集団の中で意欲的に活動する</li><li>・こんな方法で、こんな順序でということが分かって取り組める</li><li>・自己形成視ができた</li></ul> |
|---|

個に応じた仕事内容を分担する個別化に加え、個の力量に応じたできばえで、個の責任で、個のペースでまると活動し切らせる授業の工夫をする。

- ③ 生徒の試行錯誤、工夫、発想を大切に、待ちながら生徒に見つけさせていく授業
- ④ やや抵抗がある、しかし目的を励みに少し頑ばればやりとげられる題材に立ち向かう授業
- ⑤ 目標や内容が、くり返しや発展で積み上げられ、確かな力となる単元の配列と題材の選定
- ⑥ 一人ひとりの最近接領域が直感的に見抜かれ、配慮される授業（教師の構えづくり）

以上、本年度は昨年度に比べ「楽しんで……」の楽しむ姿が、雰囲気的楽しさに加え、課題を自分でやりとげた、抵抗を乗り越えた楽しさに、また「力いっぱい……」の姿も、ダイナミックな力いっぱいに加え、歯をくいしばって、集中して……といった姿も求めていった。

### (3) 授業づくりへの具体的な取り組み

表 8 授業実践メモ

- ① 教材研究、生徒理解等を含めた授業研究会の充実
- ② お互いに忌憚のない意見やアドバイスの交換ができ、連携がスムーズにできる教師集団をつくる。
- ③ 「楽しんで力いっぱい……」の姿を常に意識しながら生徒を見つめ、観察記録をとり、そこから指導の手だてや姿を引き出す要因を探る。
- ④ 授業を常にふり返り、実践メモ（表 8）を残す。

#### 本時の授業で工夫したこと

- |                  |
|------------------|
| 1. 導入、動機づけ       |
| 2. 展開場面で（個別配慮の工夫 |
| 3. 実践しての感想       |

- ⑤ 家庭と密な連絡を取る。特に次時への課題意識を家庭でつなぎ、家庭学習（準備・練習等）によって更に強めたり、次時への期待を盛り上げる等、生徒の構えづくりへの協力をあおぐ。

以下、単元や題材の選定、学習の組み立て、1時間の授業の工夫と、幅広い立場からの授業づくりについて、「からだづくり養訓」、体育、生活単元学習、健康管理での実践事例を述べる。

## [2] からだづくり養訓（サーキット・リズム表現）の実践

### (1) 中学部の「からだづくり養訓」について

「からだづくり養訓」は3頁に示す週時表の月・水・木1限の「サーキット運動」と金の1限の「リズム表現」を総称したもので、一定のプログラムを年間くり返し取り組ませることによって、一人ひとりのからだの課題に直接働きかけながら「鍛えるからだづくり」という立場から、からだづくりに迫っていこうとするものである。

しかし、「鍛えるからだづくり」とは言っても、新指導要領の解説「養護・訓練への取り組み」にも示されているように、「偏りばかりに目を向けて、ただ単に訓練をくり返すのではなく、できることを大切にして、楽しみながら、意欲的に、目的的に、すすんで……」といった意欲姿勢を大切にすると同時に、「みんなと一緒に、協力しながら……」といった集団での取り組み、「どの子にも力いっぱい活動しきらせる」といった運動量の確保を考慮した授業づくりを模索して実践してきた。

以下、「サーキット運動」と「リズム表現」について述べる。